

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400031	事業の開始年月日	平成19年6月1日	
		指定年月日	平成19年6月1日	平成20年4月1日
法人名	社会福祉法人豊笑会			
事業所名	ケアセンター日ノ出			
所在地	(〒231-0066) 神奈川県横浜市中区日ノ出町2-132-3			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	24名	
		通い定員	12名	
		宿泊定員	4名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年11月27日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は京浜急行日ノ出町駅より徒歩4分県道平戸桜木道路を西に入り、神社や公園に隣接した交通の便が良く新年は、隣の「子神社」に初詣、春には接続した大岡川で満開の桜を觀賞し「桜まつり」夏には隣の公園で町内会のお祭り、また、季節の花を見ながら日光浴、屋上では菜園をし夏には屋上から花火大会の花火觀賞ができます。ご利用者様ご家族様の願いや希望を受け止め、日中の「通い」を中心に「訪問」「泊まり」のサービスを柔軟に対応させていただき、住み慣れた家で、地元で、安心、安全な生活を送っていただけますよう、お一人おひとりのライフスタイルに合わせて自由な時間に「近所に遊びに行くような気持」で通いにお越しいただき、家庭的な雰囲気の中で楽しく笑顔で過ごしていただけるよう、いつもなじみの顔の職員がお待ちしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年12月12日	評価機関 評価決定日	平成27年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇理念に沿った介護の実践
 ・“利用者の生活習慣を大切にし、快適で安心・安全な生活を送れるよう心豊かに笑みをもってお手伝いしていきます”との「ケアセンター日ノ出のお約束」に沿って、職員は利用者がその人らしい生活が送れるように微笑みをもって支援している。
 ・職員の知識と技術の向上を目指して「年間社内研修計画」を作成し、毎月職員会議で研修を行い、サービスの向上に努めている。

【事業所が工夫している点】
 ◇排泄チェック表を工夫
 職員の提案で排泄チェック表の記録を記号化し、利用者の排泄パターンを把握し易くして、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。
 ◇リハビリを目的としたゲーム機の活用
 モグラ退治とワニワニパニックのゲーム機を所内に設置し、利用者がゲームと利用者間の会話を楽しみながら身体機能の向上に役立っている。
 ◇利用者家族の要望に柔軟に対応
 ・家族の要望に沿って、送迎時間の変更に柔軟に対応するとともに、「通いノート」を利用して、利用者の訪問時の様子や事業所からの伝達事項を記載してコミュニケーションを図っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ケアセンター日ノ出
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をフロア内に掲示し、日々の申し送りや、会議の場で確認しあい具体的な行動に結びつけている。	・「法人の理念」と「ケアセンター日ノ出のお約束」を入口に掲示し、“利用者の生活習慣を大切にし安心・安全な生活を送れるよう心豊かに笑みをもってお手伝いする”との理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加、隣接の神社の例大祭では救護所として施設を地域の方々に開放し交流を深めている。利用者宅や施設の近隣の方々、散策時や買い物の折、地域の人たちと挨拶し声を掛け合っている。	・自治会に加入し、隣接する神社の夏の例大祭では、事業所を救護所として開放し水分補給と熱中症予防にかき氷を提供しており、また、リハビリゲームも地域に開放している。 ・町内会の餅つき大会に杵刀子を貸し出したり、ゴミ拾いなどの行事に参加し地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、事例を交えながら話し合いの場を設けている。キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座にて地域の方々に認知症に対する理解の普及に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2,3か月毎に開催し、運営状況や行事内容、今後の予定等を、説明・報告をして、会議での意見、要望を職員会議で検討し、日々のサービスの向上に努めている。	・運営推進会議は2か月ごとに自治会長、民生委員、地域包括支援センター、利用者家族の参加を得て開催している。 ・参加者から利用者の拡大についての提案があり、課題としてとりあげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横浜市主催の小規模多機能型居宅介護連絡会の勉強会に出席し、意見交換に努めている。 お一人暮らしの利用者を中心に日頃のご様子や、変化があった時には区と地域包括支援センターに報告・相談をして協力関係を築くよう取り組んでいる。	・区の介護保険課や近隣のケアプラザとは定期的に連絡を取り、協力関係を築いている。 ・センター長が区のキャラバンメイトとして養成講座の講師を務め、小規模多機能居宅介護連絡会の勉強会にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室に施錠をしない、車椅子に安全帯が付いていても使用せずズレ落ちに留意する等々、身体拘束マニュアルを活用して全職員が「身体拘束」についてよく理解した上で、利用者をよく見守り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・職員はマニュアルによる身体拘束についての研修を受講し、身体拘束をしないケアを実践している。 ・泊りの部屋は施錠せず、玄関は安全のために施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者、家族との関わりの中で、表情や会話等の様子観察と、入浴時には身体状況に注意を払い様子観察し、気づいた点を記録して虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や講習会へ参加を心がけている。利用者や家族に情報提供ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时・相談受付時に利用者のニーズ、家族の思い、関係者の意見を聞く時間を十分とり、契約に関する説明を十分した上で、理解・納得を図り契約を結んでいる。解約又は改定等も同様に自宅に訪問し文書を用いて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、フロアの入口に掲示して、契約時に説明している。連絡帳の活用や送迎・訪問時の傾聴を通じて、家族や利用者の意見や要望を聞けるように努めている。連絡帳での意見や要望は、その都度検討して回答している。また、朝夕の申し送りの時や職員会議の場で共有してサービスに反映させている。	・家族からの意見や要望は、送迎時や連絡帳を活用して聞いている。電話による急なサービスの変更にも極力対応している。 ・提出された意見や要望は、職員会議で検討し、結果を家族に回答するとともに運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時、職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けて、反映させ、共有するようにしている。	・管理者は日々の申し送り時や職員会議で職員の意見を聞いている。 ・職員からの提案で記録の書き方の研修を行ったり、排泄チェック表に入浴時の状況を書き、状態を把握するなどの改善事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サンライズ会議を定期的開催している。現状報告をし、協議の上、今後のサービス向上に努めている。また、職員を労うため、年に1～2回の親睦会を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部による新任者研修を実施している。また、講習会や研修会への参加の呼びかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会や研修会等を通じて同業者と情報交換や連携を図りサービスの向上に努めている。また近隣施設とのイベント等を通じて相互交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることや、要望を再度傾聴し、安心してサービスを受け入れられるように訪問回数を増やすなど不安解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問・電話での連絡を密にし、家族の不安解消に努め、信頼関係が築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談段階から、利用者・家族の必要としているサービスを見極め、他の介護サービスを含めたサービスが適切に受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は一緒に行って頂いたり、また、本人の希望を聞きながら、色々な事に共にチャレンジしたりして信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎時、電話、訪問、通いの連絡ノートにより、毎日介護をしている家族の立場を考えながら、あらゆることに観察を怠らずに接し、家族の健康状態、生活についても会話を交え共にケアを行っていけるような関係を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の話題やご近所の話題を出して支援に努めている。また、商店街等を散策したりして馴染みのお店や、馴染みの人との関係の継続を支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員と利用者が、地域を散策したり、買い物に出かけたりして、なじみの人との交流ができるよう支援を行っている。 ・友人の訪問にはエントランスのテーブルに案内し、お茶を出してゆっくり寛げるよう配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりについて職員が把握し、利用者同士が仲良く関わり合えるようにテーブル席・送迎時の配車・座席等、気配りをし職員が間に入り支援している。また、リハビリを目的としたゲーム機で、「体のリハビリ」「心のリハビリ」「利用者さんどうしのコミュニケーション」を活用しての支援も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者・家族には、終了後に「また、いつでも相談ください。」と、話している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用前のアセスメント情報と利用後の日々の関わりの中で得た希望、要望等は共有し個別に対応している。	・利用者の希望や意向は日々の会話や表情から把握し、個別に対応している。 ・どんな事に興味を持っているかを利用者の様子から把握して、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に聞き取りをし、また、従前の関係機関からの情報提供をお願いし把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者・家族から一日の過ごし方を聞き、身体の様子観察をして、利用者の見守りや傾聴を通じ把握に努めている。その人らしく過ごせるよう工夫し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを基に計画作成担当者を中心に、本人・家族・介護者の意見を反映した利用者本位の介護計画書を作成している。	・介護計画は利用者や家族、職員の意見を入れ、モニタリング結果を反映して、計画作成担当者が作成している。 ・計画の実施状況を職員会議で検討し、通常は3～6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や変化を個別に介護記録書に記入して、職員間で共有している。必要に応じて家族とも連携しケアの実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合に依る利用日、利用時間の変更や、通院の付き添い等、その時々生まれるニーズに対応し柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々、行政機関との関わりを持って地域資源を活用できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族が行っているが、日々の観察で変化が生じた場合はその都度、家族に受診を促している。	・利用者全員が、かかりつけ医で受診している。 ・通院は原則として家族にお願いし、家族が付き添えない場合は職員が対応している。 ・また、薬の処方箋や受診結果のコピーをその都度もらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスに看護師が兼務しており、日常の健康管理や医療処置を看護師と共に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連携を取り、入院時には病院へ訪問し、家族を交えて主治医・看護師・ケースワーカーとの情報交換・相談に努めている。経過・家族からの相談、退院時の情報、退院後の留意点等、連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞き、情報を共有して話し合いをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に家族に、ターミナルケアについて対応が困難な旨を説明して、了解を得ている。 ・職員は利用者の急変や重度化した場合は、その都度家族と相談し、適切に対応している。 ・職員は、緊急時の対応についての研修を受けている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいて全職員が理解し対応ができるよう努めている。定期的な訓練はまだ実施していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は4事業所と合同で年2回実施している。1回は事業所単独で、他の1回は中消防署の下に避難訓練をしている。運営推進会議にて協力体制をお願いしている。防災用品は、まず、水と非常用保温シートの備蓄をしてある。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の防災訓練中、1回は夜間対応の訓練を行っている。 ・非常用の備蓄には、水と防寒シートを備えている。 	非常災害用の食料・飲料水は、事業所独自で3日分を備蓄し、リストを作成して管理されることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重した対応をしている。プライバシーについては、朝夕のミーティングや会議で話し合っている。不適當な場面を目にした時はセンター長がミーティング時に注意している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者のプライバシーを損ねることのないように、話し掛けには敬語を使い、丁寧な言葉かけに心掛けている。 ・個人情報を含む書類は、錠のかかる書庫に保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた話しかけをして、本人の思いや希望を表せるような接し方を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の願いや希望を受け止め、可能な限り本人の生活ペースで楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容・美容院へは、本人・家族対応をお願いしているが、要望があれば付き添いを行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、テーブルを拭いたり、エプロンをたたんだりして頂いている、また、職員と一緒に食事の準備、片づけをしていただいている。毎回献立の説明をして、楽しく食事をして頂けるよう時間を設けている。また、利用前のアセスメントで嗜好や食事内容、制限等把握して食事の提供をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は業者に献立、調理を委託しているが、朝・夕は利用者の好みを入れ職員が作り一緒に食べている。 ・朝夕の食材は地元の商店街で調達している。 ・利用者は、職員と一緒にテーブル拭き、エプロン洗い干し・たたみをしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によりカロリー計算されたメニューを提供している。また、一人ひとりの摂取量を記録し、全職員が把握するよう努め、利用中の経過により食事内容、制限等把握して食事の提供をしている。水分摂取量については、制限のない限り補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施している。介助時は口腔内の観察も行い、義歯の手入れと管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導・介助を行っている。排泄チェックを行い、排泄のサインを見逃さず自立に向けた支援を行っている。	・排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導し排泄を支援している。 ・利用者が立ち上がったたり落ち着きのない動作から察知して、トイレへの声かけをし、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・野菜や食物繊維の多い食事を提供し、午後からは運動を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は午前中を基本としているが、利用者の希望やタイミングに合わせて対応している。また、毎月26日をフロの日として、季節感を取り入れ、色々な香りを楽しめるように支援している。	・通い・泊りの利用者とも毎日入浴し、夏場は清拭やシャワー浴にも対応している。 ・入浴を拒む方には、声をかける職員を変えたり、時間をずらすなどの工夫をしている。 ・季節にはゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、宿泊室で利用者の生活ペースに合わせていつでも安心して気持ち良く休息できるように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の用法・時間・量・副作用等を確認、服薬時、服薬後の変化がないか様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味、興味を取り入れ、作品作りや体操・レクリエーション等で、職員がオリジナルの物を考え取り組んでいる。また、講師の指導で習字や気功を楽しんでいる。掃除・調理が好きな人、食事の片づけ等が好きな人にはお願いし、役割意識を持って生活に張り合いや喜びが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、体調に合わせて周辺の散歩や隣接する神社、公園に出かけたり、スーパーに買い物に行っている。また、花が植えられている屋上で季節の花を觀賞したり、日光浴をし外出気分を楽しんでいる。	・天気の良い日には、車いすの方も隣接する神社や横浜橋商店街、伊勢佐木町モールへ出掛けている。 ・職員と一緒に食材の買い物に行き、また、桜の季節には大岡川沿いで花見を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今のところ要望がないが、通い・泊まりのサービス利用時にお金を使う機会がなく、認知症のある方や物盗られ妄想のある方もいらっしゃるの、金銭の持参はしないようお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、利用者の状況に応じ支援している。また、手作りの葉書をレクに取り入れて、個々に送りたい人（家族や親しい知人）を聞き支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはその時期の飾りつけをして季節が感じられるようにしている。また、温度・湿度・換気・照明等を調整し、居心地の良い空間づくりをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングには、季節の装飾がなされアロマの香りが漂っている。 ・リハビリを目的にしたモグラたたき、ワニワニパニックのゲーム機を置き楽しんでいる。 ・屋上のプランターでは、野菜や草花を植えて水遣りをしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子を移動したり、アコーディオンカーテンで仕切ると個室になるので、思い思い自由に過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊する居室は、利用者に合わせて個室と、アコーディオンカーテンで仕切る個室を用意している。住居を目的としていないので、利用者が好みの物を最小限持参していただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、ベッド、エアコン、防災カーテンに加え、カレンダーや時計、絵を飾り居心地よく過ごせるよう配慮されている。 ・利用者は、写真など好みの小物類を持ち込んでいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所へ手すりを設置し、安全に自立した行動ができるようにテーブルや椅子などの配置も工夫している。文字やシンボルなどで表示し、混乱や失敗のないように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアセンター日ノ出

作成日 平成26年2月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策 備蓄についての飲料水、保 存食の確認リストを作成 し、必要な物の確認。	確認リストを作成して不足 備品の把握を行う。	備蓄品の再確認を行い不足 品を備える。	6か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。